

自由民主党

世田谷区議会議員

和田ひでとし 通信

区政レポート

令和元年十月 発行

第二十四号

令和元年の秋、新たな時代の半年が経過しました。この間、参議院選挙や内閣改造と大きな国政の動きがありましたが、今年も猛暑の夏、各地で豪雨や台風の被害が相次ぎました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

二〇二〇大会まで後一年となり、世田谷区では様々な関連イベントが続きます。議長は議会での質問はできませんが、区政全体を注視しつつ、二十三特別区の議長同士で連携を図り、都や国への要望活動など重要な役目を担っております。

今までとは全く違った立場での仕事が続きますが、世田谷区のため全力で務めてまいります。

公共施設整備の進捗状況

区役所・区民会館の建て替え



世田谷線側からの全体イメージ（中央の低層建物が区民会館）

現在実施設計の策定中、その後工事業者を選定して、着工は2020年度末頃となります。区役所機能は継続しながら、まず一部保存の区民会館、中庭付近から一期工事が始まり、順次解体・建設を繰り返し、三期にわたっての大変高度な技術を要する大工事となります。そのため、この度の特別委員会（9月4日）での報告によりますと、工期・費用が一部変更され、最終的な竣工は2027年春、総事業費は447億円となりました。区民会館の閉鎖期間は2021年1月より約2年半となります。近い将来予想されている100万都市にふさわしい区役所・区民会館にしなければなりません。議会としてもしっかり注視していきます。

玉川総合支所・区民会館の建て替え



等々力駅前で改築中の玉川総合支所・区民会館

世田谷区の地域行政制度の拠点となります玉川総合支所・区民会館の改築工事も進んでおり、等々力駅前からもだいぶ形になって見えてきたところです。立地条件が駅前ということで、玉川地域22万人の重要な拠点として来年の完成が待たれますが、現時点で2020年春の竣工予定が約2か月遅れ、7月頃の開設予定となりました。

奥沢まちづくりセンターの建て替えに伴の課題



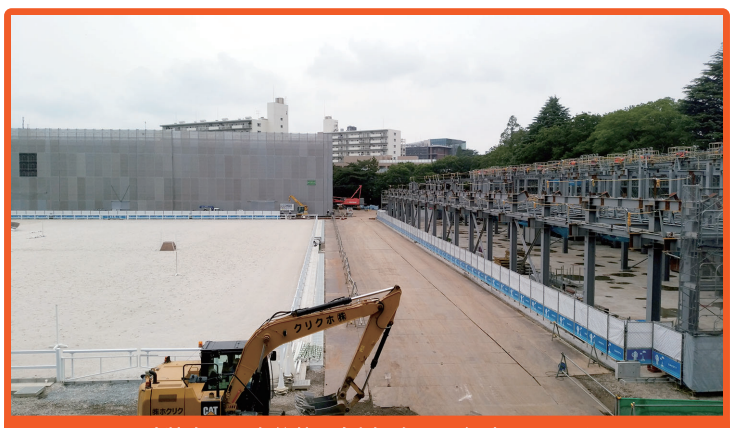
新築中の奥沢まちづくりセンター

奥沢地区（奥沢1～3丁目・東玉川1～2丁目）の拠点となります奥沢まちづくりセンターは2020年3月開設を目指して工事が進んでいます。新たな土地を購入しての整備ということで、完成後はこれまでのまちづくりセンターの**建物が空きます**。

公共施設の不足解消に向けて

この地区は区中心部へのアクセスの不便さからこれまでも公共施設の整備が大きな課題となってきました。残念ながら新まちづくりセンターは複合施設ではないため、集会室等がありません。これまでのまちづくりセンターの建物を地元の皆さんの活動拠点として、ぜひ有効活用できるようにとの声を実現できるよう、全力で努力してまいります。

2020オリンピック・パラリンピックに向けた準備



改装中の馬事公苑　右側は仮設の観客スタンド

2020東京大会まで1年を切り、馬術競技会場の馬事公苑も工事が着々と進んでいます。観客用のスタンドも仮設として約9000人収容できる規模のものが設営され、大会終了後は解体されます。再び元のように区民まつりが開催できるようになるのは2023年からの予定です。

アメリカのホストタウンとしての世田谷区、1年前イベントなど、様々な取り組みが行われる中で、アメリカ選手団の事前キャンプ地として大蔵総合運動場等の改修工事も進んでおり、ボランティアの募集も始まっております。大会を何としても成功させ、そしてその後のレガシーをしっかりと残せるようにしなければなりません。

特別区（23区）からの都・国への要望提出



毎年東京23区から、各区だけでは処理できない課題をそれぞれの議会でまとめ、東京都・国への要望として提出しています。

今年は世田谷区からの要望事項として、区議会の中で4項目にまとめてまず特別区議長会へ提出、さらに特別区（23区）全体として議長会で絞り込み、東京都・国への要望として提出しました。東京都へは都庁と都議会へ、さらに国へは関係各省庁を議長会の代表が訪問してまいりました。

世田谷区からの提案は下記の2項目が取り上げられましたが、いずれも喫緊の課題として取り組んでいるところであり、都や国との連携によってさらにしっかりと進めなければなりません。

① 保育待機児童対策、特に保育人材確保策の支援の継続
② 高齢者施策、特に施設整備と介護人材確保策の支援

マイナンバーカードの出張臨時窓口での発行手続き

昨年10月の決算特別委員会で「マイナンバーカード申請手続きをもっと身近な公共施設や町会会館などでできるように」と質問（通信22号に掲載）しましたが、現在行われている車座集会でも地元の皆さんより要請がありました。

特に、奥沢・東玉川地区のように臨時窓口がある支所・出張所へも行きづらい方のための措置として要請をしております。間もなく各まちづくりセンターでの印鑑証明や住民票を発行する自動交付機が廃止となりますが、マイナンバーカードがあればコンビニでの発行が可能となります。

世田谷区の地域行政制度は各地区公平でなければなりません。

これからも「出張臨時窓口での発行手続き」については、さらに粘り強く要請してまいります。

今後の予定

- **和田ひでとし 区政報告会**
  11月11日(月) 19:00～ 奥沢地区会館
  （九品仏まちづくりセンター3階）
  11月12日(火) 19:00～ 東玉川地区会館
  11月15日(金) 19:00～ 奥沢区民センター
- **奥沢地区防災講演会**
  11月20日(水) 18:30～ 奥沢区民センター
- **令和元年世田谷区議会第4回定例会**
  11月26日(火)～12月5日(木)

ご意見・ご感想はこちらまで　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

インターネットで「わだひでとし」と検索してください！

わだひでとし　検索

あなたのご意見をお聞かせください！
info@wadahidetoshi.com

防災無線・避難所 ～自然災害から身を守る取り組み～

地元防災訓練への参加を！


公共施設等に設置されている区の防災無線

この夏も各地で集中豪雨や台風など、大きな自然災害によって甚大な被害が発生してしまいました。
世田谷区では大きな被害はありませんでしたが、いつどんな形で起こるかわからない災害に対する備えは欠かせません。
特にこの夏のように想定外のゲリラ豪雨や台風の襲来には避難所への早期避難が重要となってまいります。世田谷区には防災無線が各地区に配備されていますが、皆さんからは「実際にこの防災無線がきちんと機能しているのか」「よく聞こえない」との声もいただいております。区では現在、この防災無線のデジタル化工事を進めており、2019年度工事終了後、2020年度に聞こえ方の調査を予定しています。これによってどの程度改善されるかをきちんと検証しなければなりません。

また、区立の小中学校が一時的な避難所として指定されていますが、果たしてどのくらいの方が自分の避難所を知っているでしょうか。避難所の場所や避難時の環境がどんなものなのかを日常的に知っておくことは速やかに行動するためにも非常に重要です。
実際に地元の奥沢中学校の避難所運営訓練を９月７日に実施し、参加（避難所副本部長を務めています）しましたが、かなり過酷な環境であることを実感しました。


いざという時に校庭に設置される５台のマンホールトイレ
照明はなく、井戸水を常時溜める必要があり、雨の時は大変ですし、ペーパー等は流せません…仮設とはいえ大変です


避難所の防災倉庫に配備されている発電機
使い方を知っておかなければなりません

訓練翌日には台風15号によって、千葉県を中心に強風・停電による大きな被害が発生しました。このことは、自助・共助・公助の体制をしっかり構築するとともに、私たちも改めて自分のこととしてとらえておかなければなりません。

令和元年度 文教常任委員会行政視察 令和元年７月10日～12日

幼保小中連携（上田市役所）


市役所で教育委員会の説明に質問

上田市は「愛」「学び」「つながり」の３つの視点を基本に、ふるさと上田を愛し、自ら学ぶ意欲を大切にし、家族や地域とのつながりの中で生きる力を子どもに身に付けてもらいたいとの思いから「かがやけ上田の未来っ子」を策定しました。その中で、幼児期から義務教育期までの子どもの視点に立った、一貫した教育の実現を目指すとともに「小１プロブレム」「中１ギャップ」の解消を図るために、中学校区における幼稚園・保育園・小学校・中学校が構成する幼保小中の「ブロック会議」を立ち上げ、その中で子どもの育ちを話し合う幼保小中連携の推進の取り組みを進めています。

世田谷区も９年教育「学び舎」の取り組みが行われていますが、上田市の幼保小中連携は、まさに家庭・学校・地域が一丸となって子どもを育てていくお手本のようです。特に保育園も巻き込んでということは、区の関係所管部と教育委員会の連携が大変重要となってきます。

小中一貫英語教育の取り組み（金沢市立戸板小学校）

金沢市は「世界都市金沢小中一貫英語教育特区」に認定され、小中一貫英語教育に取り組んでいます。特区の認定を受けたことで「教育課程の弾力的運用」と「教科書の早期給与」が可能となり、小学校３年生～ ６年生に教科としての英語の授業を導入しました。
年間35時間以上の時間を組み、３・４年生は「話す・聞く」を中心に、５・６年生は「読む・書く」を段階的に取り入れて授業に取り組んでいます。また、小学３年～ ５年生までは市が作成した独自の副読本を教材として使用し、小学６年生は中学１年生の教科書を使用して授業に取り組んでいます。


英語の授業、担任と専科の教諭とのコンビは見事で
児童たちはみんな楽しそうに集中していました



2020年から小学校で英語が教科化され、また、オリンピック・パラリンピックが契機となって、英語教育のさらなる充実が求められている今、世田谷区にとってもこの先進的な取り組みは大変参考になりました。

インクルーシブ教育（小松市立苗代小学校）

小松市は国のインクルーシブ教育システム構築モデル事業の指定を受け、研究推進委員会を設置して特別支援教育の充実に取り組んでいます。一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かい支援を行うための「合理的配慮事例集」を作成し、特別支援学級の教員や交流学級の教員などへの共有を図るとともに、内容の充実に努めています。
事例集は、音読に困難さを持つ児童生徒のためのリライト教材の導入や活動の理解を促進するためのICT教材の導入、児童の特性に応じた学習方法の確立など多岐にわたり、ソフト・ハードの両面からインクルーシブ教育の推進に取り組んでいます。



昨年の大阪市の視察に続いて、小松市のインクルーシブ教育の取り組みは、これからの世田谷区の特別支援教育の充実推進にも大いに参考になります。

体力向上の取り組み（福井市立和田小学校）


体育の授業は様々な工夫がいかされています
七夕飾りの竹竿を使ってボール投げに挑戦
竿の上を通過するように頑張ります

福井市では子どもの体力向上に積極的に取り組んでいます。小学校４年生から高校３年生までの全ての児童生徒を対象に独自の体力・運動能力調査を実施し、それぞれの課題をもとに計画的な体力向上を推進しており、小中学生男女ともに毎年全国トップクラスを誇っています。



特色的な取り組みとしては「ザ・チャレンジ」として、様々な時間を活用して持久走や縄跳び運動を行わせ、子どもの体力数値を学校ホームページで掲示し、自らの体力向上の状況を確認させて自分の記録に挑戦するモチベーションを高めることで個々の体力向上につなげています。

実際に体育の授業を参観し、学校の取り組み方針と、特に先生方の創意工夫によって決して予算をかけなくてもこんなことができるという実践事例を見せていただきました。
世田谷区でも体力向上を一層推進するうえで大変参考となる取り組みでした。

